

幼 兒 教 育

第 二 十 七 卷 四 月 號 第 四 號

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

文野生 上先
士陽新 一著

兒童心理學精義

增訂 十版

全一冊 定價七拾貳錢
紙插畫 七拾貳錢
紙插畫 七拾貳錢

上野先生心理學研究會を創設し斯學を研究する正に十年その學に忠實なる世既に定評あり今學界の等しく渴望して止まざりし本書は成れり本書は二十三章幾百節に分ち詳論精銳を加へ多數の插畫を以て學者研究の材料に資すべく努めたる斯界唯一の**文檢受驗者**は是非精讀研究すべき絶好の**受驗資料**である良參考書なり學校教育者は必讀を乞ふ就中

文部省囑託
文學士
青木誠四郎
先生新著

劣等兒 低能兒 心理及其教育

增訂 改版

一六價送 冊參料 洋插畫 八拾 綴拾八錢 數紙綴

本書一度が世に出て好評赫々版を重ねること正に四益々その要求は盛なり本書は心理學的生理學的的實驗研究の取扱ひ教育的方法等論の挿入し詳述せられたるものである

文學士
青木誠四郎著
寺田精一著
文學士
福富一郎著

兒童心理學序說 兒童の惡癖

全一冊 定價貳拾貳錢 送料拾八錢

本書は單に知識の敘述たるに止らず進んで兒童研究の方法を説いて其問題を提供した。

全一冊 定價參圓五拾錢 送料拾八錢

本書は兒童の惡癖の性質原因の研究とその矯正の實際的兒童教育の良書である。簡明に敘述したる實論及び實際に於いてなせる眞摯なる科學的成果で最も親切に得る好著である

全一冊 定價四圓五拾錢 送料拾八錢

メンタルテストの原理

東京高等師範學校教授
荻原擴
先生著

現代社會思想倫理的批判

全一冊 紙數七百四十頁 定價七拾四圓 送料十八錢

公平なる敘述
と嚴正なる批評
この典型!!

文要 檢書

思想問題社會問題は國民全體にとつての重要問題であつて、其の對策如何によつて國民的危機すら生じかねない。我が國民現下の急務は、各種社會改造の思想及び運動を經濟生活、國家生活に關する新舊思想及びび進歩運動を統すると共に、健全妥當なる倫理的的人生觀によつて其等思想及び運動を綜合的に批判したるものである。學者、教育者、政治家、行政官、司法官、社會事業家其の他各方面の識者は、本書の精讀により、必ずや、社會改善の針路について確たる信念を得らるゝことと信する。

賜本誌每號皇族殿下覽

大學生習雜誌

學習指導研究會編輯

東京兩高等師範學校
廣島高等師範學校
奈良女子高等師範學校
府立中學校・女學校

各教官諸先生が毎號執筆されます。

男子幼稚園

特に四歳以上の男生の友として編まれたもの、初めて理想の學習雜誌を見たところ好評さる(定價廿錢)

第一年生

一年生の人には全部お読み下さい、學校といふものな理解させ好にさせ天分を助長す良雜誌(定價廿五錢)

第二年生

學課に彩色繪に讀物に光彩陸離。時間の経つのも忘れる。本誌讀者は全部優等生。(定價廿五錢)

第三年生

初等教育界の權威者が全部執筆せる好雜誌他にありや、難解の學課も直ちに氷解さる。(定價四十錢)

(毎月一回一日發行)

趣味と學習を兼ねた雜誌!
あなたを優等生にする雜誌!
全國小學生間大評判雜誌!

女子幼稚園

男子幼稚園と同じく四歳以上の女生の友、切抜貼込理科算術童話讀物繪の稽古等兒童の好同伴(定價廿錢)

第一年生

群小雜誌と選を異にし飽く迄も學習に主眼を置き自然に成績を優良ならしめる兒童の友(定價廿五錢)

第二年生

その人を見んとせばその讀む本を見よ一本誌の如き天下第一の良雜誌の讀者は模範生と仰がる(定價廿五錢)

第三年生

引續き本誌を愛讀せば中學校女學校の入學試験も少しも恐しい事はない、諸君の救ひの神(定價四十錢)

發行所 東京市神田區小學校館 振替 東京一五〇番 大阪一四三番 東京一五〇番 東京一五〇番



本日幼稚園協會編輯幼兒教育

會長

東京女子高等師範學校校長

吉岡

郷甫

主幹

東京女子高等師範學校教授

堀

七

藏

贊助員

東京高師教授

巖谷秀雄

東洋大學教授

高島平三郎

東京帝大醫科講師

乙竹岩造

東京府女子師範學校校長

龍山義亮

東京高師教授

太田孝之

帝國教育會理事

土川五郎

慶應大學教授

大瀨甚太郎

松江高等學校長

野口援太郎

東洋幼稚園長

唐澤光德

京都帝大教授

乘杉嘉壽

早蕨幼稚園長

岸邊福雄

東京女子高師教授

野上俊夫

帝國教育會會長

久留島武彦

東京女子高師教授

倉橋惣三

東京高師教授

澤柳政太郎

東京帝大教授

松村武雄

東京女子高師教授

佐々木秀一

奈良女子高師校長

松本亦太郎

東京女子高師教授

菅原教造

奈良女子高師校長

榎山榮次

東京市學務課長

下田次郎

奈良女高師附屬幼稚園主事

川正雄

東京女子高師講師

藤井利譽

東京高等學校長

湯原元一

文部省

藤五代策

東京帝大教授

吉田熊次

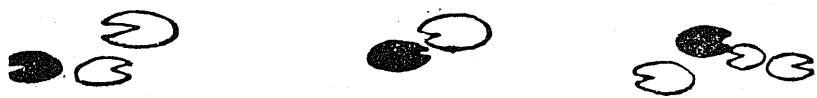
文部

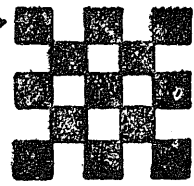
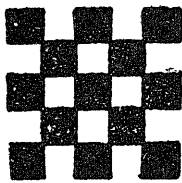
福士末之助

東京女子大學長

安井哲子

谷本富





號 四 第

育 教 の 兒 幼

卷 七 十 二 第

—(次 目)—

口 繪 花 吹 雪

アメリカのお友達を圍みて

幼稚園と尋常一年との聯絡について

..... 木 下 一 雄二頁

始期の教育..... 田 原 美 榮九頁

女兒幼少時代の家庭生活について..... 吉 田 弘一四頁

春 爛 漫..... 水 谷 年 惠 子一九頁

新しい潮干の遊び..... 平 島 權 藏三頁

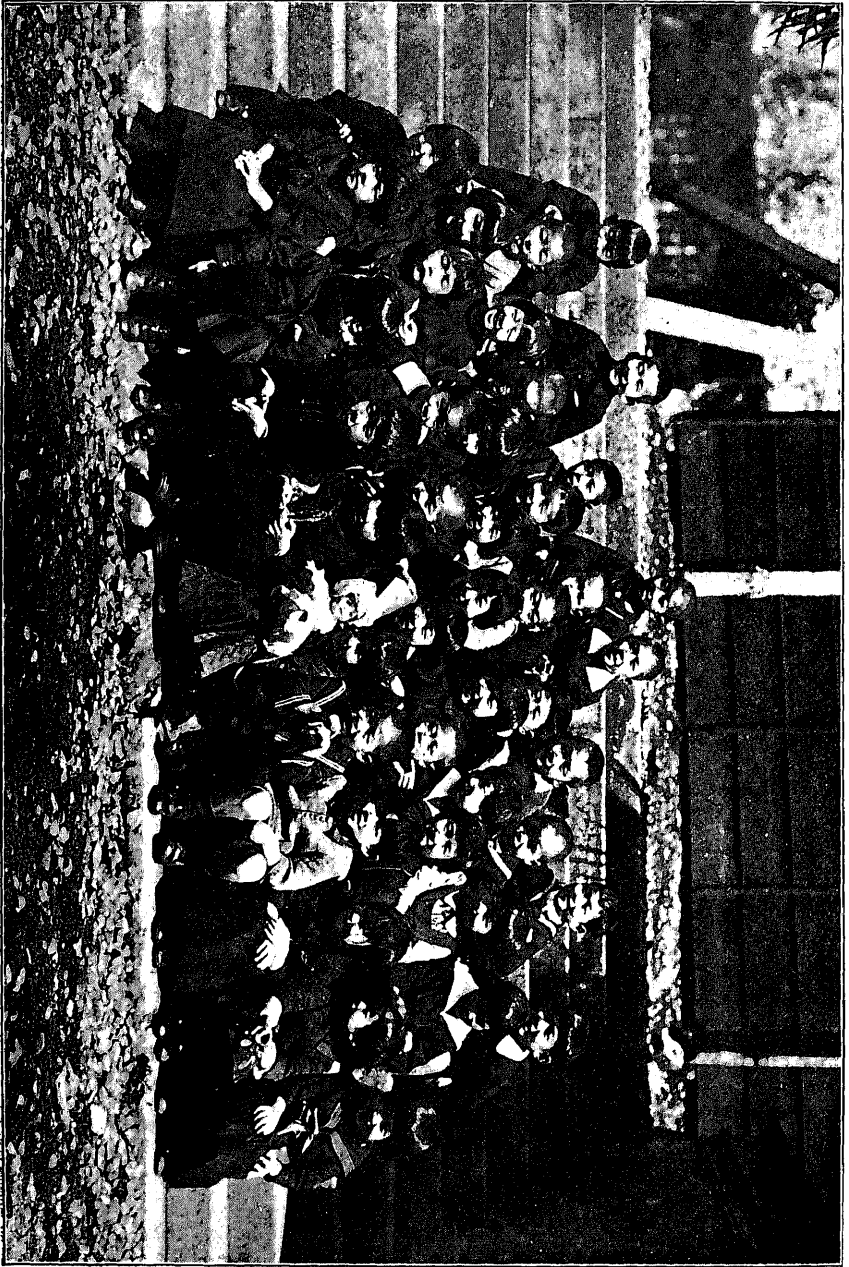
雜 草..... 大 岩 き ん二六頁

二匹のかへる..... 中 村 楠 雄三三頁

遊戯春のよろこび..... 土 川 五 郎四〇頁

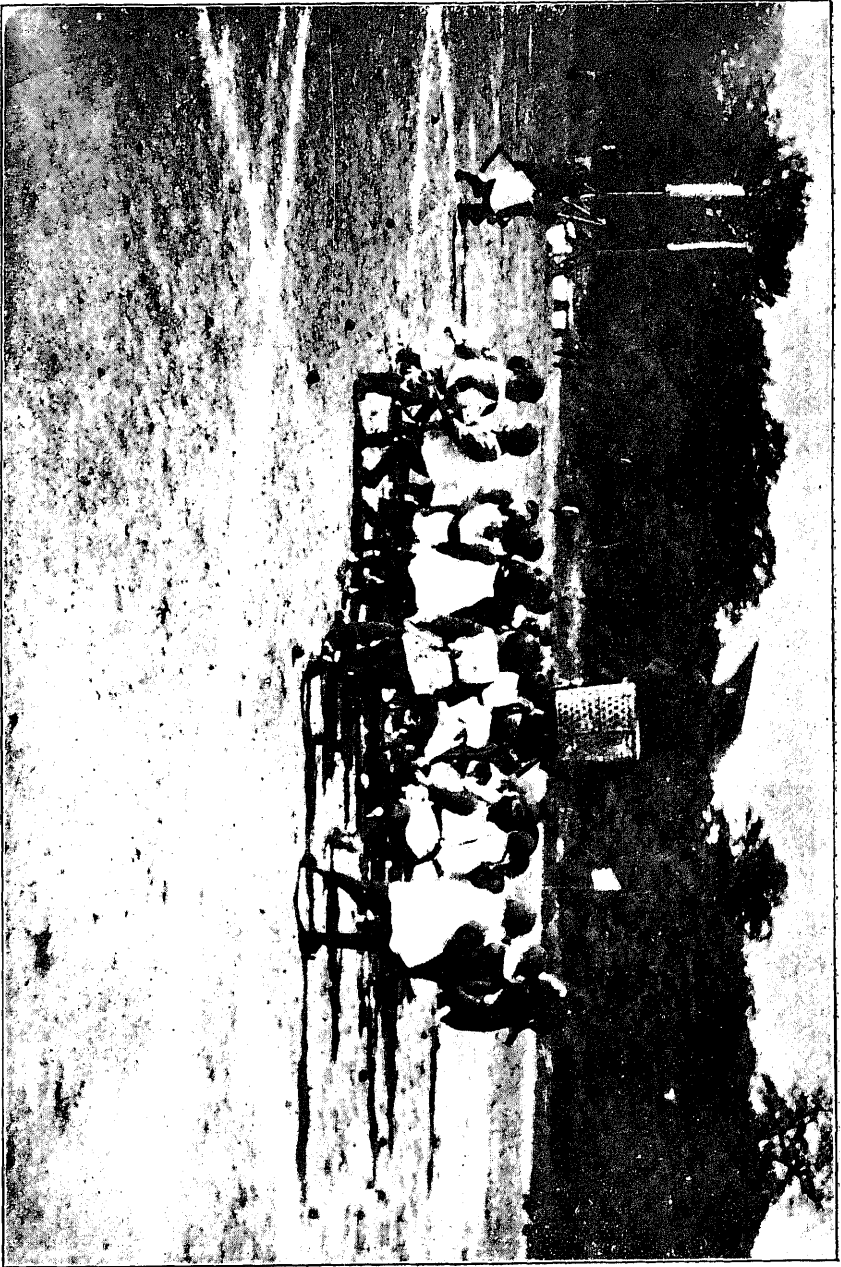
動物園あそび..... 女高師附屬幼稚園四四頁





アメリカのお友達を囲んで

花 吹 雪





號四第 育教の兒幼 卷七十二第

月四年二和昭

- 一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。
- 一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。
- 一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。
- 一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は綫大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。

幼稚園と尋常一年との聯絡について

東京府女師附屬主事 木下 一雄

一 はしがき

幼稚園と尋常一學年との生活を一層密接なる關係に置いて、その教育の上に統一と協同と聯絡とを保持しむることは、今日この方面の教育者の十分考へねばならぬ所である。正當な理解を以てすれば、幼稚園と尋常一年の課程は、寧ろ截然たる區劃のなされないのが自然である。遊戯手技觀察談話唱歌等の保育項目はかつて幼稚園の特別の課程の様に考へられて居たが、これらは當然尋常一年の課程にまで繼續せらるべきものである。反對に讀むこと、算へること等はこれまでの幼稚園の幼兒に不適當な仕事と見做されて居たやうであるが、これとて幼兒の精神年齢にして受容に適すと認定された時は、これを取扱つて一向差支ないものと考へられる。勿論こゝに讀むといふのは、ルソーが懸念した様に、幼兒を苦しませるものであつてはならぬ。讀むことに喜びを持つやうであれば、童話や童謠を聴く經驗と同じになるのである。

現時の幼稚園は幼兒の生活に於て既に社會的經驗を與へようとして居るが、小學校の教育も亦當然社

會生活の本質的基礎といふことを考へて居る。幼稚園教育と小學校教育との立場には、必然的な矛盾は存しないのである。

二 幼稚園及び尋常一年の教育を歴史的に見て

幼稚園及び尋常一年の教育を連絡せしむることについては、既に一九〇七—八年、米國がこれを中心問題として教育協會の年報に發表して居る。同時にこの問題に對する解決の方法として科學的研究がなされ、殊に幼兒の精神年齢の研究は有力な材料を提供しつゝあるのである。こゝに順序として(一)これまでの尋常一年の教育(二)幼稚園として獨立に考へられたる教育(三)幼稚園及び尋常一年の聯絡を考慮せる教育を歴史的に述べることにする。

(一)在來の考へ方による尋常一年の教育は、二つの動機を持つて居た。その一は實科的の方面で、他は宗教的の方面である。而して何れも最初小學校の設立に際して、社會生活といふことをその背景に置いたものである。

實科的の動機は中世の都市に於て初めて見るものであつて、商業都市の發展すると共に、商人が學校に讀むこと書くこと算へることの習得を要求したものであつた。これらの學校には公立のものも多いがまた牧師學者にして一定の職を持つて居ないもの、或は信仰篤き婦人等の私に設立するものもあつた。主として讀んだり書いたり算へたりすることを教授したものである。女子の教員は一三六二年頃にスバ

ニイルに初めて置かれた。

宗教的動機によつて小學校を設立したものは、無論新教舊教の教會である。舊教の小學校の最初に設立されたのは一六八四年であつて、フランスの教會によつて創められたものである。實科的及び宗教的動機に基いて設立された小學校は、讀方算術等を社會生活の準備として見て居る。然し時代の推移と共に、多少の變化があつた。即ち米國にあつては宗教的動機は牧師の經營する學校にのみ尙存するのであつて、多くは讀方書方算術の教授のために主力を注ぎ、宗教は全く等閑視さるゝに至つたのである。反對によき公民として立ち得るため等の目的からして、讀方算術等が大いに重んぜらるゝに至つた。而してこれらの動機はたとひ實科的のものであつても、或は宗教的、公民的のものであつても、何れも社會に立つための普通の知識といふべきものであつて、幼稚園の初めのもの及びその發達の模様に於て、これと根本的に異なる目的が認められるのであつた。これ久しく幼稚園と尋常一年の教育が聯絡し得なかつた所以である。

(二)幼稚園と尋常一年との對照は、ルソーの言葉によつて明かに示される。ルソーは次ぎの如く述べて居る。教育について多くの人達の考ふる所は、何々が重要な知識であるといふことであつて、それが子供に理解し得るものであるかどうかは問題にされて居ないのである。即ち教育は常に子供に大人になすべきことを求め、子供が大人になる以前に、如何なる事情にあるかいふことは考慮されなかつたので

ある。教育は最初に子供そのものを中心となすべきであると。

かやうにしてルソーは教育をなす場合に、先づ子供の本能、能力、心身の要求、年齢に相應して可能なる作業を考へたのである。決して「何々が授くべき重要な知識である」といふ様な事を云はなかつた。ルソーのこの初等教育に對する新しい思想は、忽ち幼稚園教育の基礎に置かるゝに至つた。即ちフレールは一八三七年、この思想に基いてブランケンブルグに初めの幼稚園を設立した。フレールの教育の原理は三つに纏められる。その一は模倣である。元來子供は大人の活動を模倣することに興味を持つものである。まゝごと遊びや店屋の眞似をするのはそれであるが、これによつて幼兒は有益な社會的觀念や慣習等を自然的に自分のものにする事が出来るのである。その二は表現である。この年頃の幼兒は砂や粘土で様々の物の形を作り、或は木等を組立てることに興味を持つものである。その他圖畫唱歌スキップ等もすべて活動的なものを喜んで居る。さればこれらの活動を通して藝術的の趣味を養ひ、或は創造工夫の研究を積まじむることも出来るのである。その三は遊戯である。遊戯を子供が喜ぶことはこゝに述べる要がない。しかも組織的な遊戯は自然に多くの知識材料を含んで居り、また道德的價値を多分に持つて居るのである。

これらの原理はルソーの初め述べたやうに、實際に子供に對する觀察より得られたもので、眞に幼兒教育の主眼となすべきものである。幼兒教育の原理をかく叙述することによつて、我々は幼稚園と尋常

一年の教育を劃然對照せしむる事が出来る。これまでの尋常一年の教育に於ては、全體としての努力がたゞ「大きくなつてからためになる」といふことに向けられて居たのであつて、子供の模倣や遊戯活動の中に見出さるゝ適當な發展や學習の可能性の如きは、殆ど顧慮されて居なかつたのである。

但し我々は次ぎの事を考へねばならぬ。即ち象徴主義の目標はフレーベル以後久しく幼稚園の中心要素となつて居た爲め、今日では幼稚園が象徴主義を採ると否とによつて、保守的と進歩的とに分れることである。今日尙象徴主義を採用する幼稚園は、尋常一年の教育とそのまま圓滑に聯絡することは困難である。何となればこれまでの尋常一年はたゞ讀んだり書いたり實際の習得を一般的目的として居るのに對し、幼稚園は象徴主義の神秘的な理想を著しく示すからである。これに反して進歩せる幼稚園は既に尋常一年の教育の精神をも採用して、こゝにその聯絡を求めんとして居るものである。

(三)幼稚園と尋常一年と聯絡される場合は、次ぎの四つの點に於て見出すことが出来る。第一幼稚園の生活を尋常一年まで上に擴張すること、第二尋常一年の生活を幼稚園まで下に擴張すること、第三幼稚園及び尋常一年を共通にして精神年齢を顧慮すること、第四幼稚園及び尋常一年を統合して訓練課の組織を考ふることに、即ちこれである。

第一幼稚園の生活を尋常一年まで上に擴張すること、この場合に於ては少くとも幼稚園の方面より尋常一年に向つて改良を要求すべきことがある。その一は尋常一年の兒童をして一層活動的に遊戯的に仕

事をなさしむること、その二は尋常一年の教科目の教授を幼稚園と聯絡せしむる事、その三は幼稚園にある教科目を新しく加ふること等である。幼稚園を參觀する小學校の先生は、恐らく幼稚園教育に於て子供の活動すること、子供の興味や要求が常に洞察されて居ることに、深き印象を持つであらう。實際に於て子供の仕事に對する態度は活動的であり、その興味は自發的である。遊戯や體操は少しも秩序を亂すこともなくて、且極めて自由である。幼稚園の教育の特質は多少なりとも小學校に採用さるべきものである。これに鑑みて米國シカゴ大學教授デューイの監督の下にある小學校は、尋常一年を幼稚園教育の原理に基かして、幼稚園の精神及び生活を採用して居るのである。

第二尋常一年の生活を幼稚園に及ぼすこと、この場合には尋常一年の教科目をいかに幼稚園に移すかといふことが問題である。

算術は算へたり計つたりする形式に於ては、寧ろ幼稚園の方が尋常一年より發達して居る場合が多いと云つてよい。即ち幼稚園の手技や遊戯には算へたり計つたりする機會が多いのである。子供は單純なる數を直ちに實際に使用することを容易にする。然るに尋常一年の算術は却つて實際に數を用ふる機會が少ない位である。フレーベルの幼稚園は明かに數を取扱つて居る。尋常一年の算術的の考方を幼稚園に入れるのは、左程の困難のことではない。

書方については少しくこれと事情を異にするものがある。手の微細な運動は尋常一年に於ても困難と

するものである故、幼稚園にあつては無論不適當な要求と見られるのである。

讀方の教授はこれまでの幼稚園で小學校との聯絡を考へなかつたものには無論見出すことが出来ない。然し既に讀み方をなし得る能力ある幼児に對しては、これをなすことが却つて價値があるのである。但し精神能力の低い幼児に不適當なることはいふを要しないことである。それは尋常一年の智能の低い兒童に對する場合も同様である。而して幼稚園に讀方を入れることは、算術や書方を考へる場合より複雑な關係が存するのである。この問題については、これまでの聯絡のなかつた尋常一年と幼稚園とについて考へられた教育の事實を適用することが便利である。即ち一方に讀むことを普通の知識を得ること、見、他方に幼稚園の幼児にしてその精神能力の高きものに、心理的に適合せしめようとするのである。

これまでの尋常一年の讀方教授を見ると、明かに小學校が社會的要求を以て讀方を課して居ることが分る。而してそれは少くも眞理である。實生活の場合のみならず、これを理想的な宗教や公民生活の事實に徴するも當然なる要求と見てよい。併しながらこれを直ちに幼稚園に移す時は、先きにルソーについて述べた如く、讀方は寧ろ幼児を苦ましむる材料となるものである。こゝに於て幼稚園の讀方は理想として次ぎの様なものにならなければならぬ。「讀方によつて幼児の生活に大なる興味を喚起し、彼等の經驗を豊富にする」と。(未完)

附記 多少體系を整へたいと思ひましたので、分りきつたことも書いて仕舞ひました。尙二三回にて

完結したいと思ひます。

始期の教育

女高師附屬小學校 田原美榮

一、低學年の教育原理

從來の初等教育に於ける幼兒即低學年兒童の教育が可成論理主義に傾いた純然たる學科組織の課業的方法であつた事は此處に改めて云ふ迄もないことである。即一年から六年まで學科の多少はあれど其組織方法に於て劃一的な教育法が行はれてゐたのである。其處に吾々の疑問があり不満足があつたのである。既に研究されてゐる心理學上から見ても明らかに幼兒期と少年期とは異なる特徴を有つて居り、其特徴を特徴として伸びやかに生活せしむることが各時期を完成せしめることとなり且又個體の發達の圓滿なるものであることも言を揆たないことである。

然らば之を如何に教育するか、といふことは子供に對する各方面の研究と種々の實驗とに依るべきもので直ちに答へることの出來ぬ問題である。

生活教育といひ自然教育といひ遊戯中心の教育といひ何れも子供の生活特徴を理解して其生活の豊富と充實と純粹と發達とを意味した生活其ものゝ教育を考へられてゐるものと思ふ。吾々は此意味に於てこそ是等の唱道に對して味方になり得るのであつて、往々此の原理を縦とし尙從來の教科系統を横とした云へば折衷主義の教育には未だ疑問が晴れない者である。

子供の全生活が果して遊戯生活なりと認める事が出來るならば最も教育の一方法として取入れね

ばならぬ。即彼等のする人形ごっこ、おまじごと、賣屋遊等の中に彼等は無意識に國語的生活もし、數量的生活もし、實社會の事物事象に關する事も體驗し團體的社會的問題も多々生じるのである。國語を國語とし、數生活を算術として扱はずに彼等の生活の切實なる要求への教育なのである。彼等は此處に於て満足であり愉快である。

又子供が衝動的生活の特徴を有つならば之に應じた方法も考へられねばならないであらう。又一方に之が順調の發達を圖り馳ては目的遂行・持續への環境も與へねばならぬ。

又彼等は具體の生活にある者である。即經驗蓄積時代である。彼等が日常五官に觸れるものゝ殆んどは新經驗新印象であらう。此意味に於て印象の蓄積時代、觀念構成への始期とも考へられる。此の意味から所謂低學年の子供にはものそれ自身の體驗即直觀に訴へて或はそれを分解的に理解し

或は總合的な感覺感情を以て觀ることが生活の一部面として取入れられねばならぬ。而して其内容となる材料はやはり子供の生活の中に活躍する處のものでなければならぬ。即吾々の子供觀から考へた處及實驗の結果からみて、子供の遊戯生活から取入れられるもの、彼等の家庭生活學校生活に於て彼等に關係あるもの、及自然物自然現象、及一般社會に於ける事件の中彼等に關係あるもの等である。

彼等は又じつとして話を聞いたり考へたりするよりも作業することを好むものである。彼等には只手を動かして缺を使ひ紙を切つたり張つたりする造りつゝあることを喜ぶ外に生産の喜びがある。既成の完備した美しいものを用ふるよりも自らの力で造つた不完全でも拙いものでも使ふことを非常な喜びとする者である。それは吾々がトランプや歌留多やお雛様を造らしめた經驗の上の

事實である。而して彼等の製作の喜は又彼等の知つた新經驗新印象を具體化する處にある。即直觀によつて得た印象知識を發表し具體化することは彼等の生活の中に介在する普遍的な流である。吾校に於ける低學年教育は之を原理として實驗したものである。即直觀を第一とし第二に説話第三に作業とし、印象・理解・發表を一材料毎に繰返すわけである。尙此の外に子供の休息と開放を與へる爲に遊戯の時間を置く。

二、教育の實例

題目 なんきん豆

直觀事項

- 1、豆のなる木全形、2、豆のなつてゐる状態
 - 3、根の状態、4、莖葉の状態、5、實の内部
- (穀皮種等)

説話事項

- 1、豆は根でないこと、2、どうして食べるか

實際(第一日)

九月の始め頃であつた。豆子の方から通つて來る一兒童が落花生の根ごとを珍しいからと云つて持つて來た。都會に住む子供達は落花生は食べてもどんな植物であるかは殆んど知らなかつた。全級の子供の興味は忽ち集る。而かも他の何物よりも強かつた。幸六本程あつたので級を六組に分けて一本宛分配して、各組各自の直觀に訴へる。豆に觸れて見る者、引張つて見る者、又根に注目して根瘤を珍しがる者など色々である。其中に「豆を取つてもようございますか」などの要求が出る。「一人が一つならば」と云つて許すと喜んで取つて壞してみる。彼等の豆に對する經驗は煎つたものであるが今日は生であるから皮の中々むけないことや澁皮のとれないことを體驗する。子供の多くはやはり豆が莖より根の様なものになつて下つてゐることに最も興味を有つた様であつた。

次第に見る部分がなくなつて來ると「先生繪に畫いてもよろしうございますか」と叫ぶ者が出て來る。又

「豆は根ですか、根に實がなるのですか」

「根の瘤は何ですか」

「どうして食べるのですか」

などの質問が出る。是等の問題を板書して置いて全體の觀察の終つた頃説話に移つて行く。即前の子供から出た質問に對して解決を與へ尙子供の不解決に答へる。其外に子供の直觀を助け知識として與ふべき話があれば此處で取扱ふのであるが此時は子供から出るものゝ外になかつた様である。持つて來た子供は尙この豆についての由來を話すことになつてゐる。他の子供も何か經驗談等を話し合ふ。

作業への動機は既に直觀しつゝある間に造られてゐた者もある。即

「繪に畫いてもよいか」其要求のある者は多かつた。

「今日はこれを繪に畫いたりお話に書いたり致しませう」

其處で今日の印象は今日の作業へと發展する。此際平面的な文字や繪の發表よりも製作發表を希望する者には之をも許すべきものである。然し此時は他の希望は出なかつた。然し同じ平面的な發表でも其形式は自由である。或は分解的理智的に或は所謂總合的に見た繪として畫き或は空想を加味した實・葉・根等の假話を作る等個人の能力と性格とに應じて種々の形式に發表せられる。

今日の作業はこれを完成して終る。あと遊戯の時間にする。一日の中一時限分（四十分乃至一時間）位は戸外に出して休息と自由を與へる必要がある。然し疲勞と興味の狀態によつて必ずしも此の限りでない。

第二日

昨日のなんきん豆はまた大部分木に着いてばけつに浸してある。子供等は昨日の興味がまだ去らず頻りに豆に觸れて見てゐる。昨日の作業の記述の中に「此の葉を取つて柏餅屋がしたい」など書いてあつた、其の叫も私の頭に残つてゐた。即今日の作業への發展の道はそれになつた。先づ昨日の作業の結果について彼等の印象を呼び起す。全體的によい作業であつたことを賞めて觀察の誤や記述上の誤を一般に注意し、優秀なものや形式の異彩なものを發表して一同批評鑑賞をさせる。最後に柏餅屋を希望した者のを發表して一同の賛成を求め、大喜びで一同柏餅屋の準備にとりかゝる。葉を取つて之を賣る者、粘土屋の店、柏餅屋の店、お客様などに分れて賣屋遊が始まる。指導者、各店を巡視して賣買取引を監督する。又時々お客様になつて買ひにも行く。かうして此遊は一時間餘

も續いた。最後は子供の程度に應じて賣上高の計算をさせ、又今日の賣屋遊に生じた子供相互の問題感想等を聞いて整理をして終る。(完)

本會主幹の堀七藏氏を横濱阜頭に御送りしたのは昨年の櫻の頃でございましたが、御豫定通り一ケ年間の歐米教育視察を卒へられて、三月二十九日に桑港を御出帆、歸國の途につかれました。船は春洋丸、四月十五日の夕方横濱着、直ちに御歸京の筈です。

女兒幼少時代の家庭生活について

女高師附屬小學校 吉 田 弘

一、自然研究に現はれる男女の相異

小學校の理科教授を受持つてゐて、特に痛感することは理科學習上に於ける男女別の相異である。男兒は非常に自然的で又創作的である。理科教育に於ては研究的態度養成を重視し、研究題目なども自由に選擇して、研究して行くことを獎勵するが、それが男兒に於ては可なりの程度に成功し得るが、女兒に於てはそれが殆んど不可能である。兒童實驗をさせても女兒であると一々指圖を歓迎し、體操の號令でもかける様に一齊的に取扱ふと可なりの程度にきちり／＼やるが、それより一步ふみ出して自由なる研究に入るなどいふことは殆んど望むことがない。だが男兒であると研究題目

を自由に選擇して研究することを大いに喜び、時たま必要に應じて一齊教授が續く様なことでもあると如何にも物足らない様な顔をする許りでなく切りに自由にやらして慾しいといふことを催促するものである。兒童實驗を一齊的に取扱ふ様な場合にも、男兒の方は教師の期待する程度の實驗はすぐにやつてしまふが、それに従ふことを肯せずして種々工夫して種々の方面から觀察實驗を進めて行く多くの場合非常に愉快なる仕事の發展を見るものである。されば男兒であると全然自由にかして置いても困る兒童を見ないが、女兒の組であるとなつてよいかわからぬとあつちでもこつちでもうろ／＼するといふ結果になるものであ

る。されば自發的にすること、研究的にすること
を目標とする理科教授に於ても女兒にはそれでは
所期の目的が達せられざるものにて、知識傳授的
に行くがよいとか、教師中心で行くが却つて好結
果を來すのではないかとの弱音をきくものであ
る。

自習時間などにも男兒と女兒と來た時には非常
なる相異がある。因に我が小學校の自習といふの
は全校を通じて自習時間といふものを設け、諸學
科の作業を重んずるといふことになつてゐて、各
兒童は自分の意志のままに、理科をしたと思ふ
ものは理科教室に行き、地理をしたものは地理
教室に行くといふ制度になつてゐる。處がこの自
習時間に男兒と女兒とがやつて來たのを見ると、
男兒の方はちやんと種々のやる目的を定めてやつ
て來て、之はどうするかと先生を呼び廻はす様に
相談にやつて來て、甚だ多忙を極むるが、女兒の

方であると先生何をしたらよいでせうといふ様な
工合だつたり、先生この次の時間に習ふ實驗を教
へて下さいとかいふ工合で、先生も甚だ困るもの
である。

そんな工合だから同じ實物や器械を見せても、
女兒であると好奇心によつて見るに過ぎず、眞に
觀察するの態度がないが、男兒であるとそんなも
のに對して非常なる興味を有し、見るにしてもい
ちつて見ねば満足しない態度があり、觀察の態度
も一般によく、非常に分析的に觀察する傾向があ
る。

二、幼兒時代の影響

以上の如き自然研究に對する男女性別の相異を
見るのであるが、之は果して天稟のものであらう
か。もしも之が天稟のものならばそれに合致する
方法を講じて自然研究を指導するが至當であるが
自分はどうもそれだけで満足することが出來ぬ。

一步考へを進めてかかる相異が、日本古來の風習からして、幼兒時代から男兒は男兒とし、女兒は女兒として相異なる取扱をして來ることに起因するのではないかと思ふものである。それは取りも直さず幼兒の還境として最も重要な關係をもつ玩具そのものである。男兒であると自動車、汽車だ何だかんだという／＼と動く玩具が多いが女兒はどうであるか、人形だとか美しい飾り物とか全く男兒のそれと性質を異にするのである。男兒のそれはいろ／＼といぢつて見たり、動かして見たり、幼兒の筋肉運動や觀察に訴へる性質のものが多いが、女兒のそれは決してそうではない。人形を抱いて愛玩するといふ感情的方面や、飾り物の美を喜ぶといふ美感の初前ともいふべき方面が多く、少しも動かして見るとか、分解的に觀察するといふ方面はないのである。

私は決して今日の如く女兒に人形や飾物を與へ

て感情陶冶に資する所あるを非難するものではない。之は人間陶冶といふ立場から非常に重要な方面であることは認める。寧ろ傳統的に女兒の特長をそこにねらつてゐるものと思ひ、その妥當なるに賛意を表し度い。併し乍ら理科教育が理想とする方面の素質を女兒に於て養ふことが、等閑に附せられてゐることは認めざるを得ない。理科教育のねらふ所が今日の女子に徹底しなければならぬことは今更言ふまでもないこと故、之が徹底をはかるがためには家庭に於ける幼兒の還境にもこの方面の考慮が加へられなければならぬことを痛感するものである。

三、女兒の還境に對する考慮

然らば女兒の幼少時代を如何にすべきであるか幼兒教育の門外漢には到底考ふるを得ないが、それに對する希望だけを述べて見よう。從來の如くあまりに截然と男兒と女兒との區別をし度くない

男兒に與ふる様な玩具は女兒に與へてはならぬといふことはないと思ふ。察ろそれと同一のものたるを要しないが之れに類する心的活動、筋肉運動を要するものを作つて之を與ふべきであると思ふ。又同一のものであつても差支はあるまいと思ふ。男兒が玩具をいぢつて喜んでゐるのを傍らで女兒が見てゐる時、物に對する男女の區別を超越した人間本來の興味から、それをいぢらんとする時、その女兒に向つて兄弟や、父母などで女の兒はそんなものをいぢるものではありません、はいお人形を上げませうといふ様な事はなかつたか。

女兒に對しては感情の陶冶さへ出來て居れば、理科教育で理想とする方面の陶冶は徹々たるものであるといふならば少しの文句も私は言はぬ。理科教育に於て見る女兒の短所に對しても少しの文句も言はぬから、現在に於て見る家庭に於ける幼兒の還境をそのままに感情陶冶の方面にのみ走る

がよい。

然し乍ら人間としての働きは、又婦人の働きとしても感情のみがその全部ではあるまい。寧ろ今日の婦人には感情が勝ちすぎはしないか、感情を制御して行く理智や判断や推理などが、微弱に過ぎはしないか。殊に一般教育としての科學的考察の態度を養ふことは男兒に於てよりも女兒に於て必要ではあるまいか。特殊の方面に進んで行く男子は別として、一般に於ては女子の方がよほど多くその方面の態度を必要とするのではあるまいか。殆んど凡べての婦人は家庭に於て、衣食住の方面に苦心しなければならぬので、科學的の考察の態度を養成して置くことは非常に必要の事である。それさへも女兒に於ては感情方面だけを重視すればよいといふのであるか。家庭生活の向上も文化生活の發展といふこともそれでは望めまい。勝れた男子があつてその方面の研究を積みそれで

指導して呉ればよいといふのか。研究せんとし
 てるものにはそれほど價值あるものが出来難
 い、發見工夫といふことは偶然の間になされる場
 合が多い。尤も如何にいい事實に遭遇してもその
 本人がそれほど注意を拂ふ人でなかつたら、何も
 出来ないが研究的態度の出来てゐる人であれば決
 して見逃さずに、よい思ひ付きをする筈である。

かうした状況になれば、事實を取扱ふ人が多いだ
 けに必らずその進歩に見るべきものが現はれるで
 あらう。されば我々の教育に於てはかかる態度を
 養成して置けばよいといふことになる。之が即ち
 今日のリ科教育に於て望む處の研究的態度の養成
 である。

斯く觀じ來れば、今日の女兒の幼少時代に於け
 る家庭に於ける環境は決して理想的ではないと斷
 言してはばからぬ。幼稚園の教育も幼稚園に於て
 の考慮のみでなく、家庭に於ける幼兒の生活とい

ふことも大いに考慮される事であらうから、自分
 の意見が果して妥當であるならば、その方面にも
 考慮を拂はれ度いと希望して筆を擱くことにす
 る。

東京女子高等師範學校保育實習科は本
 年度から入學試験を課せられることにな
 り、三月二十八日試験の結果二十五名の
 方が入學を許可されました。

春爛漫

女高師附屬高女 水谷年惠子

春宵一刻值千金

蘇軾

○ 奈良七重七堂伽藍八重櫻

芭蕉

とはかゝる夜か。

花の雲鐘は上野か淺草か

同

しめやかに思ひ餘れるいきをして

西も東も花盛り、春が櫻か、櫻が春か。

柳の奥に上り來る月

與謝野晶子

うらくとのどけき春の心より

その銀色にふく輝く夕月夜、土も石も紺色に

にはひ出でたる山櫻ばな

加茂真淵

滯れて、そつと吐息をついてゐる。

○ み吉野の櫻咲きけり帝王の

○

上なきに似る春の花かな

與謝野晶子

「春はあけぼの」

○ 清水へ祇園をよぎる櫻月夜

今宵逢ふ人みな美しき

やうく白くなりゆく山際の少し白んで、紫に

艶なるゆふべ、おぼろに匂ふ花と月、行逢ふ人

は皆美しくして。

ほの色から、美しく晴れやかに生れいつる春のあけぼの、天地の胸のときめき初むる春のあけぼの、ほのくと明くる此の春のあしたを、誰か愛せぬ

者があらうか。

惜^レ花^ヲ春^ニ起^ル早^シ

杜 詩

あくるを待たで起き出づる詩人もあり、

春^ニ眠^レ不^レ覺^ル曉^ヲ

處々^ニ聞^ク啼^ク鳥^ノ

孟 浩 然

覺めもせず、眠りも果てぬ夢うつゝ、夜はあく

れども纏綿たる詩情の境地、こゝ六尺の床上に横

つて、枕に通ふ鳥の音を、うつらくと聽く詩人

もある。

とばり垂れて君いまださめづくれないもの

牡丹の花に朝日さすなり 正岡 子規

夢に香あり、色あり。その香高く、その色濃く

牡丹くづれてなほも覺めずか。

○

かはづ鳴くかひなび川に影見えて

今や咲くらむ山吹の花 厚 見 王

駒とめてなほ水かはむ山吹の

花の露ちる井出のたま川

藤原 俊成

○

春の海ひねもすのたり／＼かな 蕪 村

夜も亦のたり／＼かな。

春日野に煙立つ見ゆ少女らし

春野のうはぎ摘みて煮らしも 萬葉集

なつかしや、萬葉の少女等は春の野に出て嫁菜

を摘んで、白い煙を立て、その嫁菜を煮たので

あつた。今もかはらぬ嫁菜は萌える。春日野に行

つて、その少女等に逢ふよしもがな。

○

紅白花^ハ開^ク煙^ヲ雨^中 失 名

千枝^ノ紅^ク雨^ヲ萬^重烟 袁 枚

咲くも、にほふも雨の中、濡れて色増す春の花

そゝいで薫る春の雨、花の時節の春雨や、花笠か

させ谷の鶯。

すみだ川蓑着てくだすいかだしに

かすむあしたの雨をこそ知れ 加藤千蔭
權の雫も花と散り、水の面は花のあや錦。

○ 山里の春の夕暮来てみれば

いりあひの鐘に花ぞ散りける 能因法師

うら／＼に照れる春日に雲雀あがり

心かなしもひとり思へば 大伴家持

世を墨染の衣に隔てし能因法師も、春の寂しさを泣いたであらう。今を爛なる春の野に立つて、春の哀しさを、家持はひとりしみ／＼と哀しんだであらう。それにしても、能因も家持も、爛漫たる春それ自身がす／＼泣く音をきいたであらうか。

○ 見渡せば西も東も霞むなり

君はかへらすまた春や來し 九條 武子

あゝ春、花に媚あり、雨に情あり、燈火は紅に

して君はかへらす。無量の哀愁を含んで、美しき人のひとり、几帳のかけに籠れるは、いたはしいものゝ極みである。

○ 陥頭楊柳枝

已_ニ被_ルニ春風吹_カ

妾_ガ心正斷絶_ス

君_ガ懷那_ナ得_レ知_ルコトヲ

郭 振

路端の柳の枝が春風に吹かれてゐるのを見て、心正に斷絶すと悶えつゝつれなき人を恨む妻の怨恨は、春が焰と燃ゆるのであらう。

新しき潮干の遊び

三三

女高師 平 島 權 藏

一年の中で海水落差の最も甚しいのは、月齡三月三日か四日で其れを大潮といひ何れの海岸も、徒歩に船に嘸かし賑ふ事でありませう。

然し普通潮干狩といふのは、蛤、アサリなどの食用貝類を探るのを目的とするので在ますが、私には他の方面から小供中心に興味的に是れを行ひたいと思ひます。何れの海岸でも略同様とは思はれますが、私は毎年此頃に江の島から七里ヶ濱の邊に行きますから此方面の細話を致ませう。

此邊の潮干は本曆に記して在る時間よりは約一時間位早いので在ます、其潮干の時間よりも猶一時間も前に到着する様に、江の島の裏の岩の上になり立つ様な豫定で参ります。此岩は蠣殻が在り

ますから其で足を傷めぬ様に足袋と草履の用意が肝要で在ります。

平常は干潮時でも水中に在るものが此日だけは水の外に出で居ります。干残された水の中や岩の上を其處此處と漁り歩くと、今迄は唯の岩と見へたものが殆ど生物で覆ひ盡れて居ると言つても善ひ位に種々の動物が其表面に付着して居ます。

海藻の類では、緑色のアヲノリ（細い絲の様なもの）アヲサ（廣い幅のもの）アナアヲサ（幅廣くして穴の在るもの）褐色のウミウチハ（團扇といふよりは扇子の様なもの）ウミトラノヲ（虎の尾の意味）などは浅い水の中に其れく群をなして蕃殖して居ます。是等ものに注意して居ますと次

第く／＼に眼慣れて来て岩と同色の小さな動物などが段々と見える様になります。其所には、種々の色美しいイソギンチャクが水の中では花の咲いた様に觸手を擴げて居ます、靜に指先を其中心に觸れると口からも觸手の先端からも噴水の様に水を吹き出すと同時に指先きに軽い刺撃をざら／＼と感ずる。然し是れが彼れの餌食となる小魚などの爲めには、強く烈しく感せしめ其動物を弱らして靜かに食するので在ります。

イソギンチャクを傷けぬ様に採り海水に生かして持歸ると飼つて置く事が出來ます。其場合には動物の割合に器は成る可く大きいのが宜しい、それは金魚などを飼ふ時でも同じ事で器が小さいと水に溶け込んだ空氣の量が少ないので早く呼吸が苦しくなるので在ります。私も三崎から採つて來て震災前迄六年間飼つて置いたのが在りました、食物はアサリの生肉をピンセットで口に押込でやり

ますと段々と消化して任舞ますが、翌日には其れが濁る是れは排泄物の爲なので其儘に置けば動物が弱りますから水を取換へてやる其爲め海水を用意して置かねばなりません。

稀には此所でも得られませんが稻毛の海岸で無數に居たのを見た事が在ります。其れはイソギンチャクとヤドリカリとの共棲で小さな圓徑二分か三分位のイソギンチャクが小さな貝殻の外に附着して居る殻の中にも又其れ相應のヤドリカリが棲んで居ります。小さな明き壘に海水と共に入れて持歸りましたが二日位で死んで仕舞ました。其れは、活動烈しきヤドリカリが前に死にイソギンチャクも續て死んだので在ります。かつて三崎の實驗所で「アダムシア」といふイソギンチャクの共棲せるものを「アクアリウム」の中に入れ貝殻から取離しヤドリカリと別々にして置くと一夜の中に又元の通りに附着して居りました。更に取離した二動物を硝

子板で隔て、數日置くと兩方共に悶々たる在様で死んで仕舞た事が在ます。是等の動物は其棲でなければ活き得られぬので在ませう。

岩に付着した貝の種類も澤山に在ります。全く岩の様でよく注意しなければ見分けの出来ぬものは、ヨメガサラの類で在ませう。ヨメガサラとは總名で皿の様な一枚貝で在りますが、一般に殻頂に當る所が尖つて居て逆も皿の様に据りよくはない何か容れ、ばこぼれて仕舞ふ、其故にヨメガサラといふのだとの事でありすが、私はヨメガサラといふのは鼠(鼠のことをヨメといひまます)の皿即ち小さな皿と解釋します此類には種類がかなりあつて其形から名づけウノアシ、ツタノハ、マツバガヒまたウシノツメ、キノノハナガヒ、キノズメなどいふのがあります。

サマエによく似た貝で米粒の様に小さいのが礫か砂の様に岩に付着して居ます是れが、タマキビ

其れから同じ軟體動物ではあるが貝類とは違つて體に八枚の背板を持ち岩から離すと老人の腰の様にぐるりと曲る、ダイガセまたの名をヒザラガ、是と同じので其體の兩側邊に毛の塊りが辨慶のジュズカケの様に並んで居るケハダヒザラガ其れから八枚の背板が肉の中に埋まつて僅かに外から見ゆるキートネルスなども此類であります。

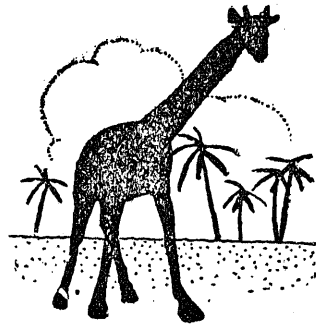
潜水夫が頻りに潜らしてくれと勸めます是に「龍宮の松」を取れといひますと珊瑚の類でゴルゴニア和名をやぎといふ其れはく、美しひ赤、橙黄、桃、紫など色美しいのを海中から取つて來ます。

是れを岩の水溜りの中に入れて置き暫くすると珊瑚蟲が花の様に觸手を伸ばします此類の觸手はインギンチャクとは違つて八本であり一本くは鳥の羽の様になつて居ます、其昔し動植物を初めて分類した人が植物の部類に入れたのも無理はな

く。地中海の臨海實驗所で花と見た其れが物を喰べたのを見ては愕いた事でありませう此面白いものを小供に見せただけでも潮干の一日の遊びには新しい意味がありませう。

其ばかりでなく歸途は七里濱に出で、貝殻を拾ひかけらでなく小さくとも完全なものを拾ひまた紅、緑、褐色様々形種々の海藻を拾ひ油紙に包んで持歸り淡水で鹽ぬきをして畫用紙に載せ布片に挟んで新聞紙の間に入れ軽く押しをかけて置く此新聞紙を毎日取換へると數日で美しい標本が出来ます是等のものを其途の人に名稱を聞きなすとすれば又限りなき興味もあませう。

どうか一般の人達に向ふ潮干狩の場所とは方向を換へて此新しき然も趣味多き潮干の遊びを可愛らしき御兒様方に試みられん事を心ある御婦人に御勧め致します。



雜 草

二六

女高師 大 岩 金

うらかな日曜日の一日を子供と一緒にのんびりとうちくつろいで遊ぶに無難なものといへば先づ野外散歩であらうかと思ひます。即ち紫雲英を畑に或は堤づたひに流れゆく花を賞したり雑木茂る小高い山にのぼり空飛ぶひばりの聲に一時切株に腰をおろしてその音をきくいるなど色々な方法もありませう。或は道への草をつむこともありませう。

かかる路傍に生えた草と申しますれば見るに足りないものもありますが是を家づとにして庭の一隅にも植ゑますならばこれ又野趣あつて誠に價値あるものとなるものも澤山あるのであります。野邊の草は根をとらずに花丈をとるのが野生植物愛

護道徳ではありますが元來このやうな雑草は私共特に手をかけて育てますやうな園藝植物とは異なり外界に對する抵抗力も繁殖力も強いものでありますから家庭に持ち歸り植ゑますにも土質その他植付け後の管理などさしたる手数をかけずしてよく生育致しますから小供の花畑などには是を鹽梅よく取捨して植ゑ込みますならばよいかと思ひます。

以下庭にとりいれて觀賞出來さうな雑草のいくつかにつきましてあらましを述べ後日散策なさいます時に少しでも利用されますならばこの上もないことと思ひます。

それについて申します前にかゝる意味において

散歩なさいます場合には必ず一個又は二個の袋か籠を用意したいと思ひます。つんで花束にする丈ならばその方の袋はさほど必要でもありませんが家に持ち歸つて植ゑやうと思ふ方の分には必ず用意しなければなりません。それにはどんな布で造つた袋でも又用ひ古しの袋でも差支へありませんその中に油紙をぬひつけておきまして泥のついた濕ほした根や株を入れても濕氣が外にしみ出ないやうにしておけばよいのでありますそして口はなるべく大きくして出し入れに自由なやうにし又さげられるやうに紐をつけておく方が便利かと思ひます。それに小さいシャベル即ち根掘りでありますこれはややもすると堀り取ることが終ればその場におき忘れ勝でありますから是非紐をつけて袋なり腰なりに結びつけておくのであります。これから用途によりまして分けてみたいと思ひます。

一、傾斜地、遊び場、花壇の縁等に使用するもの。

イ、クローバー

クローバーは以上の外に牛馬の飼料ともなり又肥料ともなるのであります。自然には田のあせなどに生えて居ります。蔓になつて地にひろがつてゐるのをぬきとつて歸り是を耕した地にならべその上に土をかけて葉のみえがくれする程度にしてその上をかるく踏んでおけば容易に活着致します。そうしてこれを又秋か春にひろがつた蔓を切りわけて植ゑておけばいくらでも繁殖させることが出來ます。

ロ、紫雲英

紫雲英も農家では肥料用として稻を刈りとつた後の田に栽培致しますがクローバーと同じやうに田のあせにも路傍にも到る所に自生して居ります。これは小面積に植ゑたよりもなるべく広い場

所一面にあの赤い花を咲き揃はせたのが一層美事であります。即ち「やはり野におくれんげ草」と云つたやうに群集的花でありませう。しかし是を廣い面積を埋める丈を採集して歸るといふことも困難でありますし咲いた花は野にありませう時程に長くはもちませんからこれは花時に根ごとの採集はさけた方がよいと思ひます。花が終れば黒い莢の實が出来ますからこれをとつておいて來る秋をまつて適當な場所にまくのであります。又これは種苗店にも販賣しております凡そ一斤一圓二十錢位であります。それで一斤あれば約四五十坪の面積に蒔くことが出来るのでありますがこれは色々の事情によりまして一定したものではありません即ち土地の肥瘠や蒔時の如何、蒔付け後の天候や手入などによりまして増減するのであります。

ハ、蒲公英

春早く萌え出た新萌は根と共に食用にする事も出来ます。路傍やあれた原野に自生して居ります。紫雲英と反對に多數一ヶ所に集めましたよりは紫雲英の赤い中やクローバーの緑の中に點々と黄にもえ出たのを賞する方が趣きあるもののやうに思はれます。長い柄の先に咲いた黄の花はやがて冠毛といふ軽い毛を持つた種子が澤山に出来ましてそれはやがて風が訪れますと諸所方々に飛散するのでありますそして思ひもよらぬ所にまでその子孫を繁榮させるのであります。この軽い飛ばされ易い種子をみつけまして持ち歸りこれは「とりまき」と申しまして直ちに下種するのであります。すそうしておきますれば秋には發芽して來る春には開花するのであります。根は丁度牛蒡の根のやうに太い一本の長い主根があつて是にいくらかの支根が出て居ります秋に根分けをしてこの太い根を二三寸の長さに切つて切口に土か灰かをつけて

少し乾かして土に埋めておいてもよいのであります。

二、纏絡用のもの、即ち花壇の周囲とか他の部分との境界とかアーチなどに用ひるので木又は竹などで四ツ目垣の如きを造つておいて是にからませるのであります。

イ、葛

雑木林の中などに自生して居ります。

秋の七草の一つとして何人にもよく知られてゐるものであります、花は葉腋に五六寸の穂を出して紫赤色の蝶形花をつけるのであります花の後には大きな莢を結びます。

春に葉の出た根を掘りとつて是を他物にからませますならば長いのは二三丈ものびますから充分に役立てることが出来ませう。

ロ、あけび

山野に自生してゐる蔓性の灌木でありまして葉

は五個の小葉が集まつて掌状をして居ります四月頃新葉と一緒に暗紫色の花を開くのであります。

昨今は是を以つて門をつくつてゐるのが時折見當りますがなかなかすて難い趣きのあるものであります。是も一度根を植ゑつけておきますればその後は年々手入する必要はありません。

三、花畑に植ゑるもの

周囲の垣も出来遊び場もクローバーや紫雲英で埋まりましたならばその一部分を適當な場所に形も種々考案致しまして切りぬきその部分を花畑にするのでありますそして次に挙げますやうなものをそれ〴〵に配置して植ゑ込めばよいのであります。或は又單なる花畑に致しませんで山に生育致しますものは一部分を小高く土盛りしてその部分に植ゑ土をとつて低くなつた所は簡單なシツクヒにしてもらつて水を溜めそこには水草を植ゑるといふやうに致しますならばこれまた自然の妙趣を

そへて一層面白いものになりはしないかと思ひます。さてその主なるものと申しますれば、

1、山のもの

イ、春 蘭

到る所の山林殊に小松林内の榊やつゝち等の灌木の根本に自生して居ります。細長い常緑の葉の間から四月頃になりますと淡黄緑色の花を開きます色は洋蘭に比べまして單調でありますがい香がありまして誠に上品なものであります石のわきにあしらつたのなど趣き深いものであります。これは山土の様な赤土のごろくしたものに植ゑるのがよいのであります。

ロ、撫 子

山野の草原地に自生しておりまして一名かはらなでしこともいひ秋の七草の一つであります。高さは一、二尺にのびる多年性のものであります。淡紅色の可愛らしい花を開くのであります。秋に

なつてその種子をとつて蒔いてもよいのであります。春に山で採集した株をいくつかに分けて植ゑておきますならばもうその秋には美しい花を眺める事が出来たす。そして毎年秋の花後か春に一度づゝ株分けを致しますならば容易に多數の株に増殖することが出来ます。

ハ、桔梗、おみなへし、ふじばかま、萩

是等はいづれも山野に自生しております。誰にも秋の七草の仲間としてよく知られて居ります。是等を春のうちに山に遊びましたならば葉を見てその根を掘りとつて植ゑておきますれば秋にはそれづくに異なつた美しい花を見ることが出来るのであります。

ニ、やぶこうじ

杉松林などの下に苔等の生えてゐる中に蕨の様に次から次へと伸びて居ります。それ故に植ゑますにも岩かげなどのあまり日光の直斜しない様な

場所を選ぶべきであります。

ホ、りんどう

これには秋に咲くりんどうと春に咲く春りんどうとがあります前者は山に後者は多く野原に自生して居ります。花は紫色の筒状をしてゐて莖の頂に數個開くのであります。

その外百合の類や鳶の類など數多ある事と思ひます。

2、野のもの

イ、すみれ

野にも山にも道のほとりにも到る所にみられるものであります而も衆人に愛せられるものでもあります。種類も澤山ありまして或は色彩の美しいもの又は芳香をもつてゐるものなどありますそして一度是の株を植ゑておきますならば毎年春になりますれば若葉を出して花を開き私共を楽しませるのであります。

にほひたちつばすみれ、寒地に自生してゐる種類で淡紫色の花を開き最も香の高いものであります。

たちつばすみれ、到る所に自生してゐるもので開花期間も極めて長く早いのは冬から開き又遅いのは夏にも及ぶものがあります。

たちすみれ、稍々濕氣のある所に自生し莖は高く直立致します花は五六月頃白色の小形で紫條のあるものを開きます。

まるばたちすみれ、おほばたちすみれ、いづれも莖は直立し花色の濃い種類であります。

みやますみれ、山地に多く自生し無莖の種類であります葉は卵形で花は淡紫色又は稍々白色をして居ります。

こみやますみれ、ひめみやますみれ、兩者とも前者と同様に山地に自生して又無莖のものであります花も大同小異であります。

この外にもひかげすみれ、まるばすみれ、けまるばすみれ、あふひすみれ、ふもとすみれ、こすみれ、えぞすみれ、しろばなすみれなど多くの種類があります。

ロ、千本やり

林野に自生するものであります。草姿はガーベラに似て居りますがその葉も遙かに小さく葉の裏面には軟かい毛がありまして緑白色をして美しいものであります。四五月の頃淡紫色の花を開きます。是はデージーと同様に扱ひまして花畑に植ゑます。是は黒い小鉢に入れましても可愛らしいものであります。春にこの株を植ゑましても又秋になつてたんぼぼのやうに冠毛を持つた種子を蒔いてもよいのであります。或は自然に放任しておきましても次の春にはこゝかしこに思ひがけない千本やりの姿を見ることが往々あるのであります。

ハ、よめな

到る所の原野、路傍などに自生して居ります。春の七草の一つとしてよめなをつむことは古書などにもみえてゐるやうであります。これはやがて秋になりまして紫色の濃淡様々な又葉も廣いのや狭いのなどありまして秋の野邊を飾ります。野趣に富んだ野菊と呼ばれるものは是なのであります。春の陽光をあびて若芽は簇々とするのであります。この株を堀りとりまして一本づゝに分けて植ゑておけばよいのであります。

よめなに似たこんぎくも同様の方法で扱へば充分に庭にとり入れることが出来ます。

この外普通にあるものと致しましてはのこぎり草、とりかぶと、さぎごけなどあります。尙人々の嗜好により數限りもないことゝ思ひます。

3、日かげに育つもの

日當りのあまりよくない花畑や建物や垣壁、木のかげなどにもそれ相當のものを植ゑますならば

充分に觀賞することが出来ませう。即ち多くの羊齒の類は半日のかげを好むものでありますから、山野に遊びました時に是等のものを取つて歸りますならば充分に役立てられます、殊に炎熱燒くがやうな夏の日に青々と緑したゝるばかりの羊齒類の生ひ茂つてゐる中にいこふといふことは身心共にすが／＼しくなるものでありませう。

くさぞてつ、山野に自生しておるのであります。が觀賞用として人家に栽培することもあります。葉は羽狀に分裂してその形は稍々そてつに似て居ります。是は地中に小枝を出して盛に繁殖するのであります。

やまそてつ、山地に自生してゐる常緑の羊齒であります。根莖から二尺程の葉を出しましてこれも稍々そてつの葉に似て居ります。

しのぶ、山地にある極普通の種類であります。根莖には黒褐色の毛を密生して居りまして所々か

ら葉を出します、この根莖をとつて他物にからませ夏に軒下などに吊してあるのはよく見受けることとであります。

こもちしだ、海岸に近い山地等に多く自生する種類であります。地下の根莖から羽狀複葉を出すことは多くの羊齒類にみる所と同様であります。特にこの羊齒は名の如く葉面に無性芽を生じて是が後に落下して、又新しい一つの羊齒となる特性をもつて居るのであります。

いぬわらび、到る所の山野に自生してゐて最も普通の種類であります。葉は卵狀橢圓形で大きいのは二尺にもなるものがあります、尙このいぬわらびの中にはひろはのいぬわらび、ほそほのいぬわらびなどがあります。

その外にもたまじだ、じふもんじだ、をしだときはしだ、りやうめんしだ、はこねさうなど種々あります。是等はみなその地下莖を堀り取つてきて地に埋めておけばよいのであります。その他日かげに育ちますものとしてはつはぶきなどは丈夫なもので、葉は光澤がありますし、中には斑入になつたものさへありまして充分に觀賞の價値あるものと思ひます。水生のものに就きましては次回に述べたいと思ひます。

創作
童話 「二匹のかへる」

中 村 楠 雄

昔々それは大昔のお話です。その大昔にも寒い
く冬があつて、それからそろそろ暖かい春が参
りました。丁度其頃田舎の田圃の中で、お父さん
と、お母さんの二匹の蛙が土の中から、ヒョック
り出て來ました。

そして二匹とも田圃の水溜りでお顔をくるく
と洗ひました。

「あゝあ、春だく私達の嬉しい春だ」

とお父さん蛙が言ひながら、大きな息をプツツと
お空の方へ吹きました。
お母さん蛙も

「あれ、暖かいお水が小川の中を一つばいに流れ

てゐます。田圃にもお水が澤山溜つてきましたね
え」

と申します。

「を、さうく、緑の草も奇麗にふき出して來
てゐるよ」

とお父さん蛙が元氣な聲でお答致します。

「あれく、お空でヒバリも鳴いてゐますよ。ホ
ラく奇麗なお花も咲いてゐますこと。早く私達
のお家もたてませうよ」

とまたお母さん蛙が申しました。

それから二匹の蛙さんが仲よくセツセと働いて奇
麗なく、可愛いくお家をたてました。

其の中にお母さん蛙は、卵を澤山生みました。其の卵を大切にしておくと、また澤山のおたまちやくしが出来ました。其のまたおたまちやくしはいつの間にか小さな蛙さんになつてゐました。

ところがオヤ／＼どうしたと云ふのでせう、澤山の子供蛙の中に二匹だけ、變な蛙さんがゐますよ。二匹ともお父さんにも、お母さんにも似ないお體の色をしてゐます。一匹の方は緑色へ黒い點々のついた様な色をしてゐます。一匹の方はうす黒い土色をしてゐます。

その土色の蛙さんは、お體の色は美しい事はありませんけれども、大變やさしくて、よいお言葉をつかひます。それに緑色の蛙さんは、お體の色は奇麗ですけれども、やんちゃでそれに本當にきたない悪いお言葉ばかり使ひます。

お父さんもお母さんも、この緑の蛙さんには困つてしまひます。よいお言葉を使ふ様に、やさし

くする様にと何べん言ひ聞せてもちつともお言附を守りません。

其の中にあちらでも、こちらでも、土の中からムクムクと親がへるが這ひ出して來ました。そしてどの蛙さんのお家にもやつぱり小さな子供蛙さんが澤山出來ました。そこへ丁度蛙さんの幼稚園が始まりました。それでこの緑色の蛙さんと土色の蛙さんも、ほかの蛙さん達といつしよに幼稚園へ行く事になりました。

幼稚園へ行つても緑色の蛙さんはちつともよいお言葉を使ひません。そして自分の體が大きいものですから、ほかの小さい方をいぢめたりして面白がります。他の人のお名まへを呼ぶ時にも

「誰々さん」
と言はずに

「誰々」
といつて呼びすてにしたり致します。

土色蛙さんは幼稚園へ來ても、よいお言葉をつかつて、皆んなにやさしく致します。それで幼稚園の先生も

「緑色の蛙ちゃん、よいお言葉を使ひませうね、土色がへるさんの様にやさしく致しませうね」

と度々おつしやいます。けれどもいつもだまつてお返事も致しません。

或日幼稚園で帽子取りを致しました。先生も子供も皆んなで致しました。子供達は男の子も、女の子も、みんな赤と白とに分れて帽子をかむりました。先生も赤と白とに分れましたが、先生はタスキを肩からわきへなくめにかけてゐられます。先生のは其のタスキをほどけばよいのです。

「ビリビリビリッ」

と云ふ笛の合圖で戦争が始まりました。

「ウフアツ」

と鬨の聲をあげて兩方から攻め寄せました。それ

からは追つて行つたり、逃げ戻つたり、あちらでもこちらでも

「キアツ、キアツ」

「アレー」

「アツとられた」

「ウフア」

などと云ふ聲が、ひつきりなしに聞えます。

向ふでは先生どうしつかまへ合つてゐます。そこへ赤と白との子供がどちらからも助けに走つていきます。こちらでは白の先生が、赤の子供達に追はれて逃げてゐます。今戦争の眞最中です。

そんな間にも緑の蛙さんの

「コラッ」

「アイツッ」

と云ふ様な聲がよく聞えます。

また

「緑の蛙さん、そんなお言葉でいゝの」

とおつしやる先生のお言葉も時々聞えます。

其のうちに帽子取りはおしまひになりました。

赤も白も同じ様に二回勝ちました。それでどちらも

「萬歳」

を致しました。

そして幼稚園から歸つて來ても、緑色の蛙さんは直ぐに泥田の中へ飛んで行つて、おいたばかりしてゐます。土色の蛙さんは谷川の奇麗なお水の流れてゐる所へ行つて、お友達とお唱歌など歌つてお遊びを致します。

ところが或日曜日的事了。緑色の蛙さんは

「土色のかへる、今日は日曜日だから、あのお宮のそばのお池へ遊びに行かう。あそこへ行つて水泳をしよう」
と申します。

「あゝ行きませう。そして水泳するの面白いねえ」

「サア行かう」

「サア行ませう」

と二人は出かけました。

そしてとう／＼お池へ着きました。そこで二匹は水泳の競争を致しました。二匹は水の上へならんで浮びました。緑色の蛙さんは

「サア僕ヨイ、トンと言ふよ、遅れちや駄目だよ」

「ヨイ、トン」

二匹は向ふのお池の樋の所まで、一生懸命に泳ぎました。土色蛙さんもそれは／＼一生懸命に泳ぎましたがとう／＼緑色蛙さんに負けました。さうすると緑色蛙さんは大力み、

「ヘン、どんなものだい、僕は殿様のやうにえらいのだぞ、先生にはめて貰つても、土色がへる駄目だなあ、土色蛙の弱虫やい」

なんて悪口を始めました。其の時

「アレ／＼アレ」

お空から

「フワ〜〜」

と、紫色がかつた、緑色がかつた、黄色がかつた
紅色がかつた、雲の様なものが、舞ひ降りて來ま
した。

それがお池の上まで來ると、紫も、緑も、黄も
紅もみんな

「ススス〜」

と色がこくなつて、そして奇麗なく、ピカ〜
光つたおべべになりました。

「あゝ、おべべが出來た、奇麗だなあ」

と思つてゐるうちに、ニコ〜とお笑ひになつた
奇麗な女の方のお顔があらはれました。

「私はそこのお宮の神様であるぞ、緑色の蛙、お
前は殿様のやうにえらいのだと言つて力んでゐる
が、名は何と云ふのでありますか、殿様がへると
云ふのかね」

とお尋ねになりました。けれども緑色の蛙は

「知らんわい」

と口の中でつぶやきながら、お返事もしませんでした。

「あゝ、これ〜こんどは土色の蛙」

とおつしやつたので

「ハイ」

と土色の蛙は、きれいに確かなお返事を致しまし
た。

「よくお返事が出來ました。あなたはいつもよい
お言葉をつかつて、そして大變お友達にも優しく
致しますから、一つ今日はいゝものをあげませう」
と神様はおつしやつて、持つてゐられたお鞆をバ
チンと開いて、中から小さな金色の玉を、お取り
出しになりました。

「土色の蛙、これをお飲み、これを飲むと大變よ
いお聲が出ます。お唱歌も一層お上手になります。

サア」

といつて渡して下さいました。それでそれを頂戴してグイツと飲みました。そして

「ありがたうございました」

と申上げたのですが、

「アア、これは誰の聲か知ら」

と思つて氣づいて見ると、もう土色蛙さんは大變よいお聲になつてゐました。嬉しくつて嬉しくつてたまらないので、にこ／＼しながら神様のお顔を見ますと、神様もにこ／＼していらつしやいました。

「そして土色蛙、お前の名は何といひますか」

とまたお尋ねになりましたので、

「私は土色蛙のほかに名はありません」

と申上げると、

「よし／＼それならよい名もつけてあげませう。

お前は**大變**か、しこいからかじかといつたらよいで

せう」

と申されました。それでまた

「ありがたうございます」

といつてから、おつむをあげて見ると、もう神様のお姿はありませんでした。

それでこのとき神様のおつしやつたお言葉から緑色に黒茶色の點々のある蛙に、殿様がへると云ふ名がついたのださうです。そしてこの時神様に金色の小さい玉を頂く事が出来なかつたから、今でも泥田の中を飛び廻りながら、グワア／＼グワ／＼と、やかましく鳴いてゐるのださうです。

この時の神様のお言葉で、谷川のきれいなお水の中に住んでゐる土色蛙に、かじかと云ふお名まへがついたのださうです。そしてこの時神様からあの金色の玉を頂いて飲んだので、今でもかじかは體の色こそ土色ですけれどもあんな可愛い、奇麗な聲で鳴く事が出来るやうになつたのださうです。

注意 適當な繪とふさはしい態度とを混じ用ひる事は、このお話を生かすに特に大切な要件だと思ひます。(昭和、一、二二〇、)

春のよろこび

土川五郎振

此の遊戯は律動で歌はありません、寒さがだんくとけて長閑な春の恵に浴する氣分を現はしたものです。

第一、1……………拍手二回

2……………左上を見て兩手を躰前にて少しく左右に開き掌は上を向く。

3……………拍手二回。

4……………右上を見て兩手を躰前にて少しく左右に開き掌を上に向く。

5 6……………全生手を繋ぎ二歩前に進み足を揃へて兩手を上にあげ上體を後ろに空を見る。

7 8……………二歩後退し最後に左足を引きて蹲踞す。

9……………右食指を出し他指を握り右肩を右に傾け左方を見て右手を胸前左へ倒して一回振る。

10……………左食指を出し左肩を下げ左手を胸前右に倒し右方を見て一回振る。

11 12……………9 10と同じことを繰返す。

13 …… 兩手を下より打ちあげ拍手して立つ。

14 …… 右回轉正面に向く。

15 16 …… 足踏三回す。

第二、 1 …… 兩手を眞直に頭上に伸ばし掌を向き合はす。

2 …… 右足右へ一步、上體を右に傾け兩手を左右に開き掌を下に向く。

3 4 …… 左右に開きたる兩翼を上下に動かしつゝ左足より右方へ四歩、第四歩目の中に右掌を上に向けて右上方を見る。

5 …… 1と同じく兩手を頭上に伸ばす。

6 …… 左足一步左へ上體を左に傾け兩手を左右に開くこと2に同じ。

7 8 …… 左右に開きたる兩翼を上下に動かしつゝ右足より運びて四歩左方に行く第四歩目に左掌を上にかへし左上方を見る。

9 …… 右足一步右へ左足をあげて跳ぶ此時兩翼を左右に開き上下す、上體を少しく左に傾け顔は右上を向く。

10 …… 左足一步左へ右足をあげて跳ぶ此の時前と同じく兩手を左右に開き上下す、上體を少しく右に傾け左上方を見る。

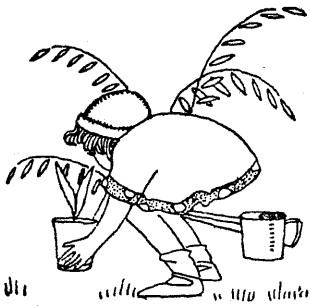
11 12 ……同じことを繰返す。

13 14 ……両手は左右に開きたるまゝ上體を右に傾け左足をあげ右下を見て右足にて跳びつゝ右回轉をなして正面を向く。

15 ……拍手二回

36 ……頭を左に傾け開きたる両手の前膊を曲げ（肱は肩と同じ高さにて）掌を耳の後にして右上を見る。

未完



春のよろこび

(律動遊戯)

Musical notation for measures 1-3. The piece is in G major (one sharp) and 2/4 time. Measure 1 starts with a forte (*f*) dynamic. The melody in the treble clef begins with a quarter note G4, followed by quarter notes A4, B4, and C5. The bass clef accompaniment consists of a steady eighth-note pattern: G3, A3, B3, C4, D4, E4, F4, G4.

Musical notation for measures 4-8. The melody continues with quarter notes D5, C5, B4, A4, G4, F4, E4, and D4. The bass clef accompaniment continues with the eighth-note pattern, adding a dotted quarter note G4 in measure 8.

Musical notation for measures 9-12. The melody features eighth-note patterns with accents (>) in measures 9 and 11. The melody notes are G4, A4, B4, C5, D5, C5, B4, A4, G4, F4, E4, and D4. The bass clef accompaniment continues with the eighth-note pattern.

Musical notation for measures 13-16. The melody continues with eighth-note patterns and accents (>) in measures 13 and 14. The melody notes are G4, A4, B4, C5, D5, C5, B4, A4, G4, F4, E4, and D4. The bass clef accompaniment continues with the eighth-note pattern.

動物園遊 び

四四

女高師附屬幼稚園海の組

卒業する前に、何か一つ面白い事をして遊びたい、然し玩具屋は度々でもう飽きたし何にし様かしら、と色々考へた末やつと思ひついたのが、此の動物園遊びで御座いました。始めは動物を粘土細工でするつもりで御座いましたが、冬で御粘土も出来ないので、全部畫用紙とキビガラで致しました。象はこゝいふ家に入れ、兎はこゝして草原に遊ばせて、と計畫した時はもう立派なく、動物園が出来て居りましたが、愈々仕事に取りかゝつて見ますと分らない事ばかりで、幾度か計畫例れになりかゝりました。第一動物の色ですら分らない物があり、柵と言ひおりと言つても不斷ぼんやり

見過して居る私共には、さつぱり見當がつきませんでした。やむを得ず或雨の日、丁度御仕事も暇なので園丁は傘を並べて上野の山に動物園を訪れました。そして一生懸命で動物の様子や、柵の様子等を見て歸り忘れない中にと、次の日から開園準備に取りかかりました。丁度〇先生が切紙の材料に澤山の動物の畫を御持ちでしたから先づそれを拜借して子供に切らせたり、子供の國の御本の中から切り抜いたり、畫の好きな一郎さん達が畫用紙で切つたり致しました。大層足の太い兎や、獅子よりも大きいベリカンや、馬と同じ位に小さな象や、滑稽な動物ばかり集りました。象、羊、

麒麟、駱駝、獅子、馬、驢馬、河馬、カンガルー、栗鼠、兎、猿、鷄、七面鳥、孔雀、鳩、小鳥、ベリカン、おしどり、其他二三種で子供と大仲好しの熊と、虎を集める事が出来なかつた事を、本當に残念に思ひました。

動物の準備が出来たので今度は御家にかかりました。象の家はキビガラを四方にたてて柱にし、畫用紙と色紙で屋根を作りました。其の中に細いくく色紙で鍵（輪つなぎ）を作つて二匹の小象をつなぎました。

次に駱駝、麒麟、羊、カンガルー等は畫用紙で柵を作つて四方を圍ひ其の中に立たせました。兎ちゃんにはカンガルーと一緒にして、可愛いく御家も立ててやりました。一番苦心致しましたのは小鳥と猿の御家でした。金網ではり廻らせば簡単に済みますけれ共、それではあまりに興味がないので、キビガラを兩端に置いて其れにヒゴを渡

したものを、幾つもくく作つて、あとから糸で結び合せました。これでやつと鳥籠の様な御家が出来ましたので、其の中に止り木と藁の巢を作つて澤山の小鳥を入れました。やつと鳥籠の形になつたと思つて、ホット、する間もなくヒゴが、ピンとはねて折角のがすつかりこわれてしまふ事も何度か御座いました。其の度に子供達は、ワア／＼と「これは面白がつて居りました。」先生私の鳩も入れて「これは先生カナリヤです」とクレオンで黄色に塗つた鳥を持つて來る人もあつて、籠は見る／＼一ぱいになりました。猿の網もそれを大きく作つて、中に御家とブランコをキビガラで作つて三匹の御猿を入れました。獅子は上野では岩の上に居りましたが、この動物園では厚紙で家を作つて鐵柵をヒゴで作り其の中に納めました。こんなにしてそれ／＼の御家が出来上りました。子供達はお机の上に並べられた動物を見て「先生早く動

物園ごつこしたいな」等と言つて居りました。次は植木と餌を作りました。大根、仁參、泥鱈、御煎餅、等をクレオンで書いては切り抜きました。

「先生仁參が出来ました」もう一匹泥鱈が出来ましたよ」と次から次へと太い／＼仁參やら、蛇の様な泥鱈が澤山に出来て忽ち餌箱は一ぱいになりました。幾日間か長い間かゝつて、やつと準備が終りました。けれ共この事があつた爲に例年より雪の多かつたこの冬を、少しも苦勞なしに面白く過して参りました、之れだけでも本當によかつたと思ひました。子供達は一日千秋の思ひで楽しい開園の日を待つて居りました。開園の前日は朝から子供と一緒に、御室の裝飾やら配置に取りかかりました。色紙を細く切つて女の人が輪つなぎをすれば、男の人は半紙に日の丸を書いて旗を作つたり皆よく御手傳ひしました。

海の組動物園に面白い動物が澤山参りました。

あした九時半から、皆さん見に来て下さい。

中にはこんなポスターを、方々の組や先生方に配つて歩く郵便屋さんも居りました。御室の中は旗や輪つなぎで飾り入口に入場券賣場と餌賣場を設けました。そして子供達は明日早く来る事、御休みしない事を約束して、皆明日を楽しみに歸りました。

いよ／＼當日になりました。入口の前には定刻前から澤山の小さなお客様が詰めかけて「まだ」「まだ」と待つて居りました。愈々開園致しますと我先にと飛び込んで来て入場券は羽のはえた様に飛んで行きます。あまりの忙しさに氣かぬ氣の純ちやんもまじ／＼して居ります。

ゑさを買つて象に投げて居る人、羊に紙を食べさせる人、まるで本當の動物園の様です。

「ヤツ 正ちゃんの栗鼠が居た」「正ちゃんは居ないね」

「先生、この鳩可愛いわね」ヤア象がクサリでつながれてらあ」

あちらからも、こちらからも賑やかな嬉し相な話し聲が致します、一度見て又暫くしてもう一度、又一廻り、二度ならず三度も四度も入園しては戯れて居るのでいつもくお客は一ぱいでした。其の間に交つて、海の組の方は無くなつた餌を集め



たり、入口の整理をしたりして、くるくゝ働いて居ります。私は黙つて此の光景を見て居りました。

そして自分のこの拙い計畫を僅か一時間でも、二時間でも心から、幼児が喜んでくれたと思ふと嬉しくてく涙がにじみ出るのを覚えるので御座いました。

告 稟

一、幼稚園及び小学校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。

一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字下げること。また句讀點は一字あけること。

一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に

本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内 日本幼稚園協會

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい。居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申下下さい。

一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金（郵稅共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割増）

一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會に願ひます。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はかきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定 價

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年分拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂下下さい）

昭和二年 四月十日 印刷
昭和二年 四月十五日 發行

幼兒の教育 第二十七卷第四號

編輯兼 堀 七 藏
發行所 東京府豊多摩郡戸塚町大字戸塚五七五

印刷者 大杉直次郎
東京市牛込區山吹町一九八

印刷所 大杉印刷所

不 許 複 製
禁 轉 載

發 行 所 日 本 幼 稚 園 協 會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替口座東京一七二六六番

廣 告

特等面一頁 全參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓
一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品旧奥松に御申下下さい

田村直臣先生御考案
椎名僊山先生畫

觀察カード

◎兒童に觀察の必要なるは申上る迄もありません。殊更に今度幼稚園令として掲げられたるは眞に當を得たることとします。

◎觀察材料を實物より取ることは素より望む所でありませんが、材料をなるべく廣く集め且つ幼兒に觀察の興味を持たすには繪畫に如くものはありません。

◎此の目的の爲に堅牢にして美しく觀察カードが生れました。

No.1 獸類 家庭用(十六枚入) 金三十五錢 同上 幼稚園用(八十枚) 金九十錢

No.2 鳥類 家庭用(十六枚入) 金三十五錢 同上 幼稚園用(八十枚) 金九十錢

右説明書(お話材料)一部金五錢

●虫類、花類のカードは四月には發賣いたします。

東京府下巢鴨宮下一六二二

發行所

大正幼稚園出版部

東京市小石川區指ヶ谷町一三〇

一手發賣所
幼稚園用品發賣元

株式會社 フレール館

電話小石川六二〇一
振替東京一九六四〇

專賣特許 三〇六二〇
 實用新案 一九八三一
 全 願 一九八八三
 全 願 九七四三一

新案競馬

定價金六圓五十錢

◎首の把手をひくと、其の一端に附した挺子の作用によりて前足を動かし、齒車の作用で前進する。從來の行進する木馬と同日の比ではない。

東京市小石川區指ヶ谷町

株式會社
フレールベル館

電話水戸川六三〇一番
 振替東京一九六四〇番

